

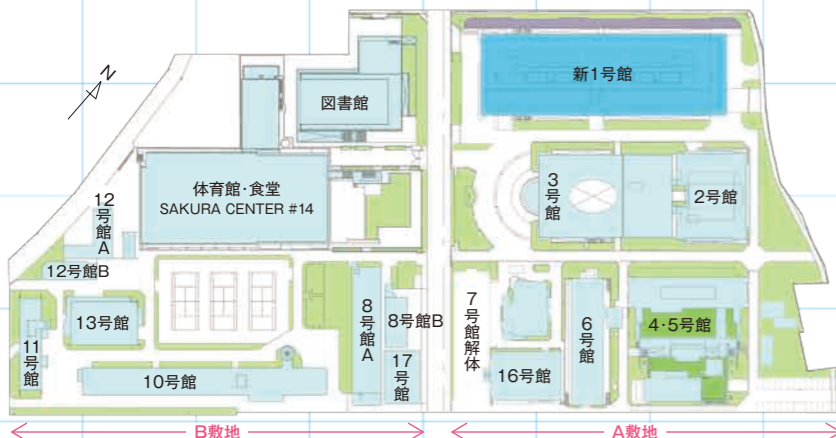
北側通用門側から見た新1号館の外観。太陽光発電や壁面・屋上緑化も採用される予定です。

特集

世田谷キャンパス  
リニューアル計画

# 先進の環境配慮型 複合施設〈新1号館〉を建設中

現在世田谷キャンパスでは、教育・研究環境をより一層充実させるための再整備事業を進めています。一環として、〈新1号館〉建設工事が進行中。そのコンセプトや竣工時期、今後の世田谷キャンパスリニューアル計画についてご紹介します。



新1号館完成後は、7号館を解体し、広場などコミュニケーションスペースなどを設置する予定です。

## 学生本位のコンセプトで構築される〈新1号館〉

本学世田谷キャンパスでは、2006年8月に建築学科棟、2009年7月には生体医工学科棟を竣工するなど、教育・研究環境をより良くするためのリニューアル計画を着々と現実のものにしています。そして今回、世田谷キャンパスのシンボルともいべき〈新1号館〉の建設に着手。2010年11月16日に起工式が挙行され、現在安全に最大限配慮しながら工事を進めています。[設計監理: (株)東急設計コンサルタント/施工: 東急・大成建設工事共同体]

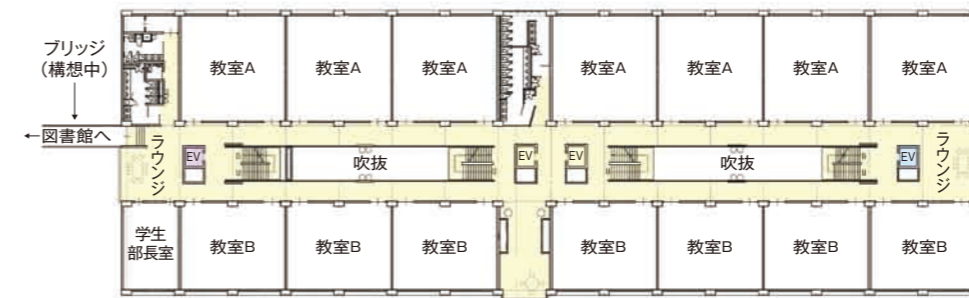
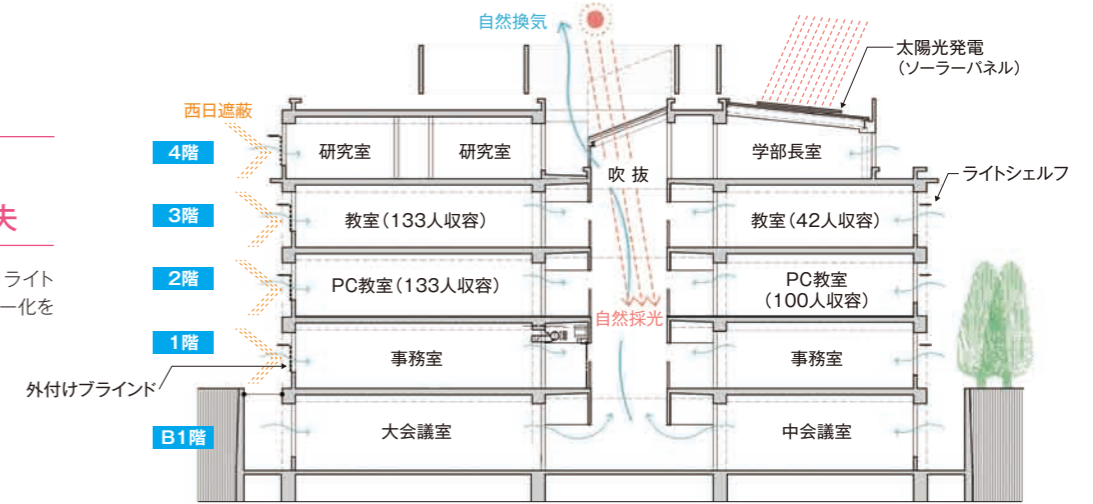
この工事は2期にわたり、1期は2011年12月に、2期は2013年12月に完成予定と、総工期3年をかけて実施されます。第1期工事では、まず現在の1号館前に南側半分の建物を建造して、その後、現1号館を解体。第2期工事で、解体後の跡地に残りの北側半分の建物を建築していきます。完成すると、延べ床面積約1万5000㎡、地下1階、地上4階建て、大中小の教室49室に加え、学生支援センター、研究室、事務管理部門を擁する複合施設となる予定です。

学校法人五島育英会法人事務局で、キャンパス再整備などの施設計画を担当する総合計画室の渡辺透主幹によると、1期工事で完成する南側1階部分には、学習・生活支

図① (断面図)

## 環境に配慮した さまざまな工夫

自然換気窓や、外付けブラインド、ライトシェルフなどを導入して省エネルギー化を図ります。



図② (2階平面図)

## 動きやすく、 分かりやすく、 寛ぎやすい空間

陽光の降り注ぐ吹き抜けを中心として、動きやすい回廊風の廊下を設置。階段、エレベータをシンメトリーに配置して、移動時の分かりやすさにも配慮、両端には寛ぎのラウンジも設けます。

援やキャリア支援を中心とした、今までにない総合インフォメーションエリアを設置し、学生への充実したサポート体制を確立します。同時に、このインフォメーションエリアと、教室、研究室、事務管理の各エリアを分かりやすくゾーニングし、安心、安全で快適に利用できる施設を目指しているそうです。

## 環境に配慮したさまざまなシステムや工夫を満載

さらに特筆すべきは、この建物が徹底して環境に配慮した先進のサステナブル設計であるという点でしょう。

天窓(トッライト)や、屋内に自然光を採り入れる庇(ライトシェルフ)による採光システム、自動制御された換気窓を用いた自然通風システム、日差しをコントロールする外付けブラインドなどを導入することで、空調の利用をできる限り削減【図①】。二酸化炭素の排出を抑制するため太陽光発電を装備し、屋上や壁面の緑化も推進します。氷蓄熱を利用した空調設備や、光触媒による空気浄化も検討しているといいます。

各フロアは光の降り注ぐ2箇所の吹き抜けを中心に、回廊風の廊下や、エレベータ、階段、そして両端にラウンジを設置して、動きやすく、分かりやすく、寛ぎやすい空間を目指しています【図②】。設備配管や配線その他のインフラも、更新が容易に出来るよう工夫されており、まさに長寿命でサステナブルな環境配慮型の建物といえるでしょう。

## キャンパス全体をランドスケープの視点でデザイン

世田谷キャンパスは、公道(世田谷区道)を挟んで、尾山台駅側のA敷地と、多摩川よりのB敷地に分かれています。両敷地間をよりスムーズで安全に行き来するための対策も、世田谷区側と協議しているところ。ひとつのアイデアとして浮上しているのが、A敷地にある新1号館から、B敷地の図書館に向けてブリッジを架けるといふもの。まだ構想の段階ですが、実現すれば、図書館・サクラガーデン・食堂と安全につながり、多くの学生にとって利便性が高まります。このように、ランドスケープの視点でキャンパス全体を見渡したデザインが重要であり、単に緑化するだけでなく、学生の寛げる溜り場などを点在させ、キャンパス全体の居心地の良さを追求する作業も合わせて進められています。なお1号館完成後は、7号館を解体しその跡地を新しい広場などに活用する予定です。また、研究施設のリニューアルに関しては、時代のニーズに合わせて積極的に対応していくことが大切で、「教育力と研究力」をさらに高めるための再構築が図られています。

施設や建物は、完成してからその真価を問われます。利用する側の学生や教職員が高いモチベーションをもって、十全に活用すること。それこそが、本当に価値あるリニューアルといえるのではないのでしょうか。

なお、今後も本誌では、新1号館をはじめ、世田谷キャンパス再整備の進捗状況をお伝えしていきます。